



山々を美しく飾る紅葉も終わり、突然の降雪に驚いている今日この頃…。いよいよ年の瀬が近づいてまいりました。寒さが日増しに厳しくなっておりますが、会員の皆様には体調を崩されることなくお元気でお過ごしでしょうか。

さて今回の研究部だよりでは、県大会パネルフォーラムにご協力いただいたパネリストの皆様、そして青山コーディネーターに、第四次研究中期計画期間の取組の総括、パネルフォーラムの振り返り、また未来へ向けての展望や思いを綴っていただきました。私たち会員の行動や気持ちを前に前にと向かわせてくださる貴重なメッセージをいただいております。

学期末の多忙な時期に、原稿をお寄せいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

## ～パネルフォーラムを終えて～

### 松江地区

#### 「島事研ビジョン2010&第4次研究中期計画の実践から」

松江市立美保関中学校 事務リーダー 林 由里

この度の5年という中期の活動計画・研究計画は全事研鳥取大会での発表という大事業を中心に動きだした。テーマは「教育課程の実施と学校事務」。この「教育課程」という器を使って、島事研の学校事務研究や事務職員の働きを広げるということをめざした活動及び研究計画であった。

研究大会は研究委員会の全事研大会発表に向けての研究発表を皮切りに、2年目は研究委員会の全事研発表報告と松江市の実践発表、3年目は隠岐の島町・出雲市、4年目は大田市・津和野町の研究発表が行われた。そして研究のまとめが今年度である。

11月6日研究大会での各発表市町の報告を聞きながら、研究やその後の取組が「教育課程」を強く意識した内容であることに静かな感動を覚えた。学校事務は教育課程と切っても切れないものであり、学校事務職員が教育課程づくりに参画することは当然の働き方であるという、41年目からの意識改革が根づき始めたことを強く感じたのである。

この意識を獲得しこれからの学校事務職員の働きが大きく広がることを期待したい。島根の未来を切り開く子どもたちの豊かな育ちのために……。

### 出雲地区

出雲市立西野小学校 事務リーダー 馬庭志津子

2年前の発表の振り返りをする機会をいただき、大変うれしく思いました。

教育課程づくりへの参画は、何も特別なことをすることではなく日常の様々な業務そのものであり、大事なものはそのことを「意識」しながら常に問題意識を持ちつつ仕事をすすめることです。その時には、①全体を見通す、②相対化する、③チームで動く、④プラス思考で、⑤誰もが納得すること、が必要な条件であると、木岡先生にご示唆いただきました。フォーラムが終わってからも、“あとはそれぞれの実践に「意味づけ」をしていくことが大事”、だとのアドバイスをいただきました。

事務職員全体の動きとして、土台となる諸規定の整備や事務処理ソフトの統一、それを支援する事務支援グループ業務の充実など、「仕組み」（条件整備）づくりへの取組がますます重要であることを再確認しました。

若い人たちへ。“こうありたい”という豊かな展望を持って、自分たちから提案して要望して動いてください。関係機関との連携を深めながらすすめてください。そこにこそ醍醐味があり、“学校事務職員の仕事は大きな可能性を秘め「楽しい」仕事”と木岡先生が言われる所以があると思います。

### 大田地区

大田市立第二中学校 事務リーダー 立脇 渉

県大会当日は、持ち時間の制約がありましたのでここで「市教委で行う事務グループ業務」の取組について補足しておきたいと思っております。

大田市で取り組んでいる「市教委で行う事務グループ業務」については、昨年度に引き続き一括で処理できる事務は市のサーバーを活用して各学校分のデータを作成し、学校の担当者が活用しています。

主な内容は、学校宛文書登録、就学援助費関係、就学奨励費関係、通学費関係、スポーツ振興センター給付金関係、購入備品一括登録、水質検査一斉実施調整等になります。

市教委の業務の処理は担当しません。学校と市教委をつなぐ役割は、大きなウエイトを占めています。事務処理についても学校との間に事務職員が介在することでより適正な仕事ができます。

今後は、教育委員会自体の仕事も事務处理的な業務が多いのですが、政策的な業務に係わっていくことが重要

だと考えています。

来年度からスタートを予定している3校のコミュニティー・スクールに関しても現在、「学校運営協議会の設置等に関する規則」が検討されています。この中で事務職員の出番があるような項目が規定されるように関わっていくことも必要です。中学生の職場体験学習の担当者会への出席も意義あることだと感じています。どこをみて仕事をしていくのか事務職員の感性が問われるところです。島根県の真ん中からこれからも情報を発信していきたいと思います。

## 隠岐地区

隠岐の島町立磯小学校 主任 渡部 大吾

今回のパネルフォーラム参加者のメンバーが決まった時、「なぜ、僕がこのメンバーの中に……。まいったな……。」というのが一番の感想でした。参加者の皆さんも「あのかい人は誰？」と思われた方も多いと思います。お話をさせていただいた内容も、自分自身もいまいちっくりせず、テーマに沿ったお話ができていたかどうか不安でいる今日この頃です。とはいうものの、こんな経験はそうそうできるものではなく、本当に貴重な経験をさせていただき、ありがたいと思っています。打ち合わせの時間も含めて、他のパネラーの方々のお話や助言は、今後の自身のキャリアアップにとっても有意義な時間を過ごすことができました。また、研究発表後の隠岐地区で行った活動の紹介をすることができたことは本当によかったなと思います。隠岐地区の「文書管理」の整備は、他の地域と比べるとかなり遅れをとっていました。しかし今回の取組で少しは前進できたと思っています。その内容を参加者の皆さんに紹介し、さらには木岡先生からの助言もいただき、今回のパネルフォーラムは、収穫の多いものでした。これからもこの貴重な経験を生かし、隠岐地区の学校事務部会を盛り上げていこうと思います。ありがとうございました。

## 益田地区

津和野町立津和野中学校 事務リーダー 渡邊 博文

昨年度の県大会発表後、さらに詳細をと、安来市や浜田市、川本町の事務グループのみなさんが本町へ研修においでになりました。さらに直近では松江市の事務部会にもお招きをいただくなど、県大会発表の反響の大きさに改めて気づかされました。また、文書の電子化については、益田管内はもとより、その実践が県内各地に拡がりをみせていることに津和野町事務グループとしても喜びを感じています。

第四次研究中期計画の研究目標を継承・発展させるため、木岡教授の講演、また、パネルフォーラムのみなさんからご教示いただいたことをもとに、「業務改善のベースはできた。ここから創造的な学校事務へ向け、ふんばりとがんばりへつなげて行きたい」と気持ちを新たにしています。

さて、次は何をやりましょうか！ ㊟なげよう、㊠たしたちから、㊡びのびと。

## コーディネーター

島事研 副会長 青山 悦子

第45回の島事研大会研究集録はお手元に届きましたか？今回の集録はどうか会員の皆様にじっくり読んでいただきたいと思います。特に、研究部による「第四次研究中期計画のまとめ」は、この4年間、皆様に様々な取組の願いをしてきた総括となっています。教育課程づくりへの参画を通して、新しい学校事務が創造できたのか？財務マネジメントや情報共有によるつなぐ役割を通じて学校力を高めることができたのか？自分でも振り返ってみませんか。

パネルフォーラムでは各地区の研究責任者と木岡先生による熱心な事例研究討議が繰り広げられ、わかりやすい総括をしていただきました。「研究の成果としては、仕組み作りは整いつつある。今後はその仕組みに様々な人を巻き込んで動かしたりステップアップする仕掛けを作るとよい。教育課程づくりへの参画は少しストレートすぎたかもしれない。授業にかんでいく・授業をつなぐというイメージである。」と。私は、コミットメント（深い関与）が今後の取組のキーワードになると思いました。また、西野小学校の馬庭さんがおっしゃっていた「じっとしては何も変わらない」という言葉に共感しました。木岡先生は手出し・口出し・頭出しとおっしゃいました。待っていても誰も考えてくれません。提案していきましょう。受身ではなく能動的に。

学校を取り巻く環境の複雑化・困難化により、学校事務職員に求められる役割は多様化し拡大してきていると感じます。グループで、教職員と、地域と協働する。何が子どものためなのか、どうすれば学校が良くなるのかを考え、研究していかなければなりません。

次は、第五次研究中期計画です。ビジョンも新しい時代に即したものに变化していかなければなりません。世代交代も加味した未来完了指向の計画を作りたいものです。

## ～編集後記～

この記事を書いている今、外では雪がちらついています。今年から一緒に働いている本校のリーダーは、雪山のエキスパートです。今年一緒にスキーに行けると思って楽しみにしていたのですが、ご本人はどうも膝が痛いご様子。今年度で定年を迎えられます。一度は一緒に雪山に行きたかったのですが……。

今までお会いしたリーダー方の中には、俳句のエキスパートや山登りのエキスパートもいらっしゃいました。春を迎えるとそうした素敵な先輩方がまた卒業されると思うと寂しいものです。

「今しかできないことがある。」それを心に留めて日々を過ごそう。そう思った冬空でした。（文責 津田）

